

大久保 規子  
法学研究科・教授

**[研究]**

前年度に引き続き、①「環境法の参加原則に係る評価指標の検討-環境民主主義の確立に向けた国際連携構築」(科研S)、②「アジア版オース条約に向けた提言-環境正義実現のための国際連携構築」(三井物産環境基金)、③「エネルギー、化学物質、水管理政策における市民参加型の意思決定手法に関する国際比較」(グローバル展開プログラム)という学際的な3つの研究プロジェクトを研究代表として推進した。とくに今年度は、18カ国の研究者、実務家を招いた国際会議を開催し、雑誌の特集号として出版したほか、2つの国際会議でセッションを企画・実施し、査読付き英文論文を含め10以上の論文等を公表し、15回以上の研究報告・講演を行って研究成果を発信し、③の最終年度評価でもA評価を受けた。

**[教育]**

法学部では、大人数講義のほか、とくにゼミの授業時間外の活動にも力を入れ、沖縄・辺野古問題と静岡・浜岡原発問題に関する2つのグループの自主研究を指導した。また、法学研究科では、大学院生や若手研究者が研究プロジェクトに参加できるように配慮し、海外調査に同行させたり、研究報告の機会を与えたりすることにより、視野を広げる機会が得られるようにし、留学生1名の博士号の取得にもつながった。高等司法研究科では、環境法を初めて学ぶ学生が行政法や民法とのつながりを理解できるように努めた。

**[管理運営]**

法学研究科では、国際交流室長を務めた。協定関係のほか、奨学金、留学生対応等、対応期間が短いものや利益調整の難しいものが多かったが、専門職員の多大な尽力と関係教員の迅速な協力により、何とか大きな支障を来すことなく業務を遂行することができた。

**[社会貢献]**

前年度に引き続き、中央環境審議会委員、大阪府公害審査会委員等として、新たな施策の立案に参加するとともに、適正な紛争処理に寄与することができるように努めた。また、環境法政策学会や日本公共政策学会の理事等として学会の運営に参加するとともに、日本学術振興会学術システムセンター研究員、日本学術会議連携会員として、各種事業に従事した。さらに、公開の研究会やシンポジウムを開催し、日弁連や各種NGOの講演依頼を含め、社会変革を目指す講演依頼についてはなるべく引き受けるようにして、研究成果の社会還元にも努めた。